

第2回 日韓学生つしま会議

海岸を埋め尽くす漂着ゴミ問題の深刻さと今後の対策について考える日韓学生つしま会議が、10月6日から3日間の日程で開催されました。



上県町越高の海岸で、漂着ゴミの回収作業を行う日韓の学生たち

■日韓の学生129名が参加
上県町越高の海岸で清掃

日韓学生つしま会議は昨年
に続いて2回目で、今年は日
本側から長崎、福岡、宮崎な
どの大学から82名の学生が参
加。一方、韓国側からは釜山
市の東亜大学から47名の学
生が参加しました。

10月6日に対馬入りした日
韓の学生たちは、宿泊先の対
馬青年の家（峰町三根）で漂
着ゴミの実態や、清掃作業の
注意点などについて説明を受
け、翌7日の午前中に上県町
越高の海岸で約2時間、漂着
ゴミの回収作業を行いました。

■ゴミ問題について

グループ討議

7日午後からは、対馬青年
の家で「いかに漂着ゴミをな
くすか」をテーマとして班に
別れてワークシヨップを行い、
午前中の作業で回収した漂着
ゴミの中で特に印象深かった
ものについて発生原因と今後
の対策について意見を交換し、
結果を発表しました。



グループ討議の結果を発表する学生

「解決には、さまざまな立場
の人がいっしょに考え、取り
組むことが必要」

海岸で数多く見られた「ア
ナゴ捕獲用のプラスチック製
のかご」をテーマに取り上げ
たある班の発表では、「かご」
の漂着原因を漁業者が使用後
に捨てたものと考え、その対
策として、古くなったかごと
新品を交換できるような制度
を設けることや、かごに名前
を書いて誰が捨てたかわかる
ようにすることなどを提案。
続いて、この問題のまとめと
して「消費者である自分たち
は、漁業者の立場になって考
えることは難しく、また、日
本以外の国のゴミの状況を把



海岸に数多く漂着していた
「アナゴ捕獲用のかご」

握できていない。解決には、
国や産業などさまざまな立場
の人を巻き込んで、いっしょ
に考え取り組んでゆく必要が
ある」と結論づけました。

大学からの呼びかけで参加
した活水女子大学健康生活学
部3年の野口美絵さん（21）
は、「（漂着ゴミの実態を）事
前に写真で見ただけではありま
したが、実際に見てその多さ
にびっくりした。解決には法
律で規制をかけたり、行政に
よる指導などが必要。今回の
会議で学んだことを友人など
周りの人に伝えたい」と話し
ました。

会議に参加した多くの学生
が、漂着ゴミ問題の深刻さを
それぞれの国の人々に伝え、
社会全体での意識が高まるこ
とが、問題解決へ向けたはじ
めの一步になることと思いま
す。

秋の交通安全運動 9月21日から30日まで 各地でキャンペーン



美津島町ナイラでのキャンペーンの様子

秋の全国交通安全運動に合わせ、対馬市でも様々な啓発活動が実施されました。

美津島地区では、9月25日にナイラでキャンペーンが実施され、対馬南警察署や地区の交通安全協会関係者らが安全運転に理解と協力を求めました。

また、毎年生徒の交通安全に対する意識向上を目指して活動が続いている大船越中学校では、9月23日に玉調バス停付近で「交通安全キャンペーン」を実施。今里小学校も9月21日に、今里バス停付近でキャンペーンを実施し、子供たちが笑顔で安全運転を呼びかけました。

両校とも、警察署、交通安全協会、学校、保護者等関係者が一体となり、手作りの啓発用品を準備するなど毎年工夫された活動が行われています。

安全・安心な町づくりは私たちの手で ～高校生が地域安全キャンペーンに初参加～



キャンペーンに参加した皆さん

対馬北警察署は、全国地域安全運動の一環として運動期間初日の10月11日午後4時から、上対馬町大浦のスーパー駐車場で、買い物客等に自主安全活動を呼びかける地域安全キャンペーンを実施しました。

キャンペーンには、10月2日に市内で初めて運用が開始された対馬市教育委員会の青パト（青色回転灯を装備した自主防犯パトロール車）や上対馬高校生徒会の役員8名も初めて参加。少年補導員や対馬市職員らと防犯グッズの配布などを通して、地域の安全を呼びかけました。

参加した上対馬高校生徒会長の武末真輔くんは、「これを機会に地域の安全に関心を持ち、高校生としてできることを考えていきたい」と抱負を語りました。

10月19日、上対馬高校で対馬北警察署の協力により薬物乱用防止教室が開催されました。生徒たちは薬物展示車両「あすなろう」号で、標本薬物やパネルを見学し、教育用パソコンソフトの質問に答え、その後、県警本部少年課少年補導員から薬物の危険性について講話を聞きました。

参加した生徒の一人は、「薬物の実物を初めて見ました。今回の教室で、薬物が身体に及ぼす深刻なダメージを痛感しました。絶対に薬物には手を出しません」と語っていました。



薬物展示車両 内部の様子

専門チームを招き
薬物乱用防止教室を開催
上対馬高校

前委員の退任を受けて、10月1日付けで西村敏子さんが新しく人権擁護委員に就任しました。

任期は平成19年10月1日から平成22年9月30日までの3年間です。子どもの人権問題、女性の悩みごと等お気軽にご相談下さい。

人権擁護委員は、国民の基本的人権の侵犯監視、救済などの処置、人権思想の普及高揚などを使命とし法務大臣より委嘱されます。

現在、市内では12名の人権擁護委員さんが活躍しています。



厳原町下原
☎0920(56)1132

新しい人権擁護委員の
西村敏子さんです。

豊玉振興開発グループが 300万円分の図書を学校に寄贈

地域活性化に取り組んできた豊玉振興開発グループ（齋藤利光会長）が、解散にあたり収益金の一部を利用して購入した300万円分の図書を、豊玉町内の7つの小、中学校へ寄贈しました。

同グループは、地域おこしを目的に昭和60年に異業種の若者21名によって設立され、地域製品の掘り起こし、商品開発、とよたま物産店の運営、様々なイベントの開催など長年にわたり活動してきましたが、設立20年の節目を期に解散することとなりました。

解散にあたり「今後の対馬を担う子どもたちに何かしてやりたい」との思いから、今回の寄贈の運びとなりました。

図鑑、伝記など新たに278冊の図書が贈られた豊玉小学校の小島誠市校長は「お陰で子どもたちが新しい本をたくさん読めるようになり、図書室の利用が活発になりました。たいへん感謝しています」と話しました。

寄贈されたお気に入りの図書を手に、笑顔はじける豊玉小児童→



アキマドボタルの乱舞

厳原町佐須地区で10月3日午後7時頃、大江正康氏撮影

アキマドボタルは秋に現れる珍しいホタルで、中国・朝鮮半島・済州島に分布し、国内では対馬にだけ生息する大陸系のホタルです。ゲンジボタルよりも大きく、体長は20mm～26mmほど。雌は羽根が退化して飛べず、多くのホタルのように光は点滅せず、点灯しつづけます。

厳原町阿須川流域が生息地として県の天然記念物に指定されています。

東部中の生徒がプロと共演 オペラ「カルメン」で

9月21日、峰町の東部中学校体育館で東京のオペラアーツ振興財団によりオペラ「カルメン」が上演され、同校の生徒17名がプロの舞台俳優に混じって舞台に立ちました。

この公演は、子どもたちに本物の舞台芸術を身近に触れてもらおうと、文化庁の主催する「本物の舞台芸術体験事業」で実施されたものです。

出演に先立ち実演指導を受けていた子どもたちは、本番では衣装やメイクをつけ、第2幕の酒場のシーンに出演し、音楽に合わせて歌い踊りました。堂々と演技する子どもたちは、プロと区別がつかないほど自然に舞台に溶け込み、会場の約300名の観客からは盛大な拍手と「ブラボー」のかけ声が送られていました。

公演後、生徒を代表して3年生の小島京子さんが「心に残る思い出深い初めてのオペラになりました。音楽の楽しさを教えてくださった方々に感謝します」と劇団員に心温まるお礼の言葉を述べ、カルメンを演じた役者の小島りち子さんは感激のあまり涙を流していました。



東部中の生徒が出演した酒場のシーン